4K UHD XJive Player XThink オプション 操作説明書

ターボシステムズ株式会社

変更履歴

変更日	変更内容
2015/10/16	初版
2016/01/21	スレーブの電源を 30 秒以内に投入の注記を削除しました
2016/03/07	モデルチェンジによる更新（OTH070,OTH071,OTH072）
2017/03/29	メニュー画面で「*」キーを押して XThink 設定画面へ遷移できるようになりました

目次

1. はじめに.....4
1.1. XThink 概要.....4
1.2. XThink 基本構成.....5
2. XThink の設定.....6
2.1. MASTER 設定.....6
2.2. SLAVE 設定.....9
2.3. XThink 起動.....10
3. コンテンツ再生.....11

1. はじめに

本手順書は、「4K UHD XJive Player XThink オプション」の操作方法について説明しています。

最新情報は製品のウェブページをご覧ください。

4K UHD XJive Player
http://www.turbosystems.co.jp/xjive.html

XThink
http://www.turbosystems.co.jp/xjive/xjive-xthink.html

1.1. XThink 概要

「XThink」は、4K コンテンツ再生プレイヤー「4K UHD XJive（エックスジャイブ）」シリーズのオプション機能です。複数の XJive Player の完全なフレーム同期再生を実現しており、複数モニターの映像をつながった 1 つの映像であるかように再生することができます。

例えば、XJive Player 4 台を「XThink」で接続すれば 8K の映像データを 4 面マルチディスプレイで再生することが可能になります。

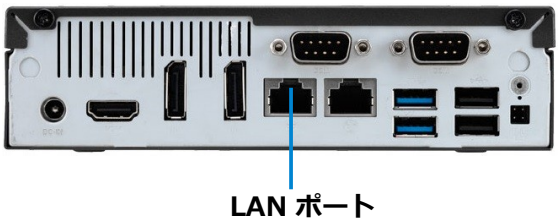
また、同期可能なプレーヤ台数に制限はありませんので数十台の XJive Player を同期再生することも可能です。

1.2. XThink 基本構成

上図は「XThink」の環境を 4 台の XJive Player で構築した例です。

「XThink」は、MASTER となる 1 台の XJive Player と、SLAVE となる複数の XJivePlayer で構成されます。各 XJive Player を LAN ケーブルでハブと接続してください。

また、各 XJivePlayer とモニタを HDMI High Speed ケーブルで接続します。



LAN ケーブルは背面左側のポートへ接続してください。右側のポートは利用できません。

2. XThink の設定

ここでは、「XThink」の構成手順について説明をしています。

はじめに MASTER とする XJive Player の設定を行い、次に SLAVE の設定を行います。

また、各 XJive Player には IP アドレスを設定する必要があります。あらかじめ各プレーヤの「Setting」メニューで固定 IP アドレスを設定してください。あるいは、MASTER の XJive Player で DHCP サーバを有効に設定すれば、SLAVE は MASTER の DHCP サーバ経由で IP アドレスを取得することができます。

2.1. MASTER 設定

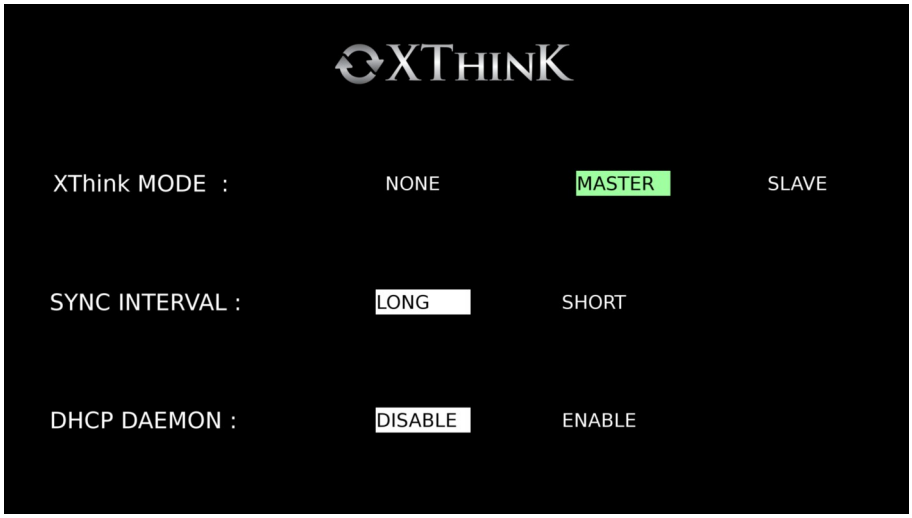
MASTER に設定する XJive Player の電源を入れます。XJive Player のメイン画面が表示されます。

USB キーボードを接続し、「F1」キーを押します。パスワードの入力を要求されます。

Ver 2.03.0 以降のファームでは、メイン画面でテンキーの「*」キーを押して XThink 設定画面へ移動できます。

パスワードを入力し、「Enter」キーを押します。

初期設定のパスワードは「1234」に設定されています。



各設定項目は以下のとおりです。

項目	値	説明
TIMELOCK MODE:	NONE	「XThink」オプション機能を無効にします。通常の 4K UHD XJivePlayer として動作します。
	MASTER	この XJive Player を「XThink」の MASTER に設定します。
	SLAVE	この XJive Player を「XThink」の SLAVE に設定します。
SYNC INTERVAL	LONG	SHORT で正常に再生できないモニタの場合にお試しください。 映像の先頭で、クロックの同期をし、その後はクロックの同期をかけません。許容している最大のずれは、水平同期周波数の半分です。
	SHORT	通常は SHORT を選択してください。LONG と異なり常にクロックの同期処理を行います。許容している最大のずれは、マスターに対して 40uSec です。 同期処理でクロックが変更されると映像が途切れて正常に再生できないモニタがあります。その場合は LONG を試してください。 ※ シャープ製 8K 映像モニター <LV-85001> は「SHORT」を選択してください
DHCP DAEMON:	DISABLE	MASTER を選択した場合に指定可能です。 DHCP サーバを停止します。
	ENABLE	MASTER を選択した場合に指定可能です。 DHCP サーバを起動します。 MASTER の IP アドレスは、**192.168.55.1** に設定されます。

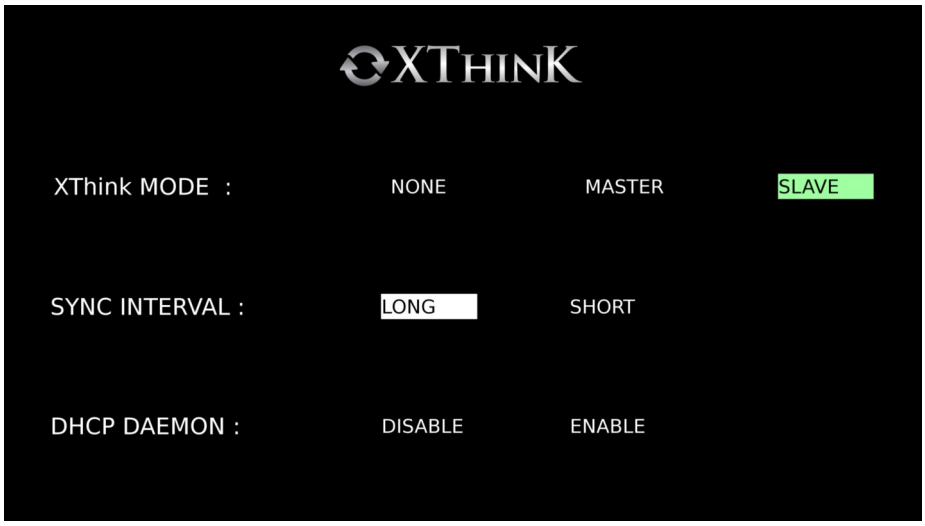
既に DHCP サーバが起動している LAN 上で XThink の DHCP サーバを起動しないように注意してください。

項目間はカーソルキーで移動できます。

1. 「TIMELOCK MODE:」の「MASTER」にカーソルをあわせます。
2. 「MASTER」で DHCP サーバを起動する場合は、「DHCP DAEMON: 」の「ENABLE」にカーソルをあわせます。
3. 「Backspace」キーを押すと、設定が保存され、メイン画面へ戻ります。
4. **設定の変更を反映するにはプレーヤの再起動が必要です。プレーヤを再起動してください。**

2.2. SLAVE 設定

XJive Player を起動し、「2.1 MASTER 設定」と同様に「F1」キーを押し、パスワードを入力します。



1．「TIMELOCK MODE:」のカーソルを「SLAVE」にあわせます。SLAVE の場合、「DHCP DAEMON:」の設定はできません。

2．「Backspace」キーを押してメイン画面へ戻ります。

各 XJive Player には IP アドレスを設定する必要があります。あらかじめ各プレーヤの「Setting」メニューで固定 IP アドレスを設定しておくか、MASTER の XJive Player で DHCP サーバを起動し、DHCP 経由で IP アドレスを取得してください。

2.3. XThink 起動

MASTER および SLAVE の設定完了後、一度、すべてのプレーヤの電源を OFF にしてください。

「XThink」を構成するプレーヤの電源を入れるときは、はじめに MASTER に設定したプレーヤから電源を入れる必要があります。次に、SLAVE の電源を入れてください。

必ず、MASTER から電源を入れてください。SLAVE は MASTER のクロックに同期します。SLAVE の電源を先に入れないように注意してください。

プレーヤを起動すると、自動的にプレーヤ間の同期化処理が実行されます。

「 MASTER 」との同期化が完了すると「 SLAVE 」と表示されます

「MASTER」との同期化が完了すると、「SLAVE」に設定したプレーヤのメイン画面左下の表示が「SLAVE」となります。

「SLAVE」表示なるまで同期再生は実行できません。必ず、SLAVE に設定したプレーヤの表示が「SLAVE」になっていることを確認してください。

3. コンテンツ再生

「XThink」で同期再生する動画ファイルはあらかじめ分割し、各 XJive Player へ配置しておく必要があります。分割した動画ファイルを同じファイル名で同じ場所へ配置してください。

分割した動画ファイルを同じファイル名で同じ場所へ配置してください。

「XThink」には、映像を分割/エンコードする「SplitEncoder」というコマンドラインツールが付属しています。

再生方法は XJive Player と同じです。

MASTER のファイル一覧からファイルを選択し再生を開始すると SLAVE に配置した同じ名前のファイルも自動的に同期再生されます。

同期再生では早戻しや早送り等の動作には対応していませんので注意してください。
動画ファイルの再生/一時停止にのみ対応しています。